

園芸学科通信 第9号



校外学習(庭園鑑賞と管理実習)
吸湖山青岸寺(米原市米原)
講師 北村 正隆 氏



青岸寺境内で北村講師から説明を受ける

6月8日、時折小雨が降るこの日、園芸学科一同は、研修場所である米原市米原にある吸湖山青岸寺に集合しました。曹洞宗(禪宗)のお寺である「吸湖山青岸寺」は、寺の案内「青岸寺及び庭園の概説」によらば、「南北朝年間(一三五六)一三六八)当時、近江守護頼朝であった佐々木宗景の遺言により建てられた米泉寺があったが火により焼失。その後、本尊聖観音像のみが難を逃れ、その後、江戶時代、彦根大雲寺三世、要津守三(ヨウシンシウサン)和尚が観音像を持して心を痛め、伊藤五郎助の尽力もあり殿堂伽藍は建立された。青岸寺の寺名は、五

6月に入り、梅雨入り宣言が出たこの時期、後期選択講座として校外学習が実施され受講しました。米原市米原にある「吸湖山青岸寺」において郷土の庭園鑑賞と管理実習を学びました。先月受講した校外学習(現地見学研修)「多賀大社・胡宮神社・西明寺」では北村正隆講師と共に現地を訪れ、庭園の管理状況や樹木の剪定状況などを鑑賞しました。その中で建物や庭園の年代や、何時ごろ、誰によって、どのように建てられた作庭されたのかなどの説明を聞き、この建物や庭園がいかなる歴史をたどってきたのかを学びました。今回は、庭園鑑賞だけでなく、管理実習を兼ねての受講でした。

郎助の諡(おくりな)「青岸宗天」を以て青岸寺とした。庭園については、永宝六年(一六七八)染阿園の作者・香取氏により完成した。庭園の見どころについては、①石組みが多い ②水を現すのに苔が用いられている ③園内に回遊式の園路が巡らされている ④和洋折衷の寄せ灯籠 ⑤降り井戸形式のつくばい 等が鑑賞される」とあります。

各班が庭木を課題に剪定作業



剪定実習は、庭園内のいろいろな樹木を対象に行われました。灌木から背の高い樹木とみなさんが協力して名園の管理に汗を流しました。この日はテレビ局からカメラマンが来て、剪定実習や清掃作業等、授業の様子を撮影していました。午後になり、選定作業も一段落、後片付けを終え、美しくなった青岸寺庭園を後にしました。

このような由緒ある青岸寺の庭園の管理に携われることがワクワクしながら作業に従事しました。涼しい後、北村講師から庭園管理や剪定実習についての説明や注意事項を受け、受講生を四班に分けた後、それぞれの持ち場に行き剪定等の実習を行いました。

選択講座「おいしい果樹の育て方」
病虫害駆除・対策のポイント
講師 松原 治夫 氏

六月二十日の選択講座は、「おいしい果樹の育て方」病虫害駆除と対策のポイント」と題して文化産業交流会館、第2会議室と受講しました。今回は、松原治夫氏の講義で、果樹栽培の基本である、おいしい果樹を育てるには、病虫害に対する対策をどうすれば良いかというノウハウを学びました。前回の講義は、果樹の苗選びや植え付け、施肥、灌水など管理の仕方についてでしたが、今回は、果樹が成長し果実を美味しくするためには生育途中にさまざまな障害が発生します。病気や害虫の発生を抑えることも重要な作業の一つです。この講座内容は、事前に購入したテキスト「プロが教える、事前に購入したテキスト」を使用して病虫害対策のポイントとは何かを学びました。その内容は、主に「葉を食害する虫」「幹や枝を食害する虫」「果実を食害する虫」に分けられます。害虫は見れば比較的わかりやすいので発見したら確実に取り除くことが基本です。このことを踏まえて、個々の害虫について説明がありました。



- ① アブラムシ、ほとんどの果樹に取っつき、葉や枝に大量に発生して樹液を吸い成長を止める。病気の媒介をするので、ブラシでこすり取るか、被害部分を取り除く。
② イラガ類、ミ、梅、柿、ブルーベリーには毒があるので枝ごと取り除く。幼虫は冬場に白っぽい楕円の球体に繭模様の繭を作るのでこまめに確認する。
③ ケムシ、アオムシ類、多くの果樹に取っつき、葉を食害する。柑類につくアゲハ類、リンゴなどにはアメリカカミキリなど、見つければ取り除くが毒を持っていないものもあり注意を要する。

校外学習・必修講座
人形浄瑠璃・富田人形を鑑賞
滋賀レイカディア大学米原校 草津校生

平成28年度、後期必修講座(1・2)年全学科対象「あり学習領域『郷土理解』学習分野『自然・歴史・文化・芸術』の一環として校外学習に参加、受講しました。6月11日(日)午後、滋賀レイカディア大学に在学中、草津校243室、米原校808室、長浜市文化芸術会館に集合し、滋賀県温床無形民俗文化財「人形浄瑠璃・富田人形」の鑑賞を行いました。公演に先立ち、富田人形浄瑠璃の歴史についての説明がありました。その内容によると「長浜市富田に浄瑠璃の人形が伝わったのは天保6年(1835年)のことです。富田の地に興行に来た阿波の人形芝居の一座が大書に見舞われ、興行が成り立たなかったために、旅費の代わりに徳に人形を贈りたが、その後、村の芝居好きの人々が集まり、その人形を使って浄瑠璃の稽古を始めたのが「富田人形浄瑠璃」の起源とされており、以来、富田の人々はこの人形を受け継ぎ、地元のお寺など人形浄瑠璃を披露してきた」とのこと。



この日の演目は「壺坂観音霊験記、沢市内より山の段」を鑑賞しましたが、郷土で守り続けられている歴史の重みや人形を操る3人の息の合った細やかな動きに感動しました。

米原校必修講座の一環として、井伊家菩提寺である祥雲山清涼寺において、法話を聞き、坐禅を組み、写経の体験を通して自己の生き方について考える機会とするために校外学習を受講しました。6月22日(木)園芸学科を各専攻39期生一同は、彦根駅から徒歩20分の所にある清涼寺に集合しました。清涼寺の神寺である祥雲山清涼寺は、寺の案内「由緒によると『慶長七年(一六〇二)初代藩主井伊直政公が亡くなられたのを墓所として、その名を「祥雲院清涼寺安大居士」により、祥雲山と号し清涼寺と称して以来、井伊家代々の菩提寺となつた。このような由緒あるお寺の本堂や多宝塔に於いて受講しました。これらから体験する坐禅について、話を聞きました。調身(背筋を伸ばす)、調息(息を整える)、調心(心を整える)が大切とのことでは、頭の前からお尻までを一直線にして、半眼にして坐し、自分と周りの目と向き合うように教わりました。水の物々それを見て「まだ半分とらえるか、もう半分とらえるか」自分とはどうとらえるだろうか、と問われている気がしました。

校外学習・必修講座
祥雲山清涼寺で坐禅と写経体験
講師 青龍寺(大僧)住職 桂川 進隆 氏

編集後記
平成29年6月25日発行「第39期・園芸学科通信第9号」をお届けします。今月は、有念お寺(清涼寺)と樹木管理実習です。庭園の剪定や樹木の管理、また、心静かに「坐禅」の体験を行うことができ、その体験を掲載しました。滋賀県の一環として「富田人形浄瑠璃」の初めに居ながら初めに鑑賞することができました。初めて体験する社寺に行き、新しい知識を得ることができ、本当に有意義な日々を送ることができました。(注)